

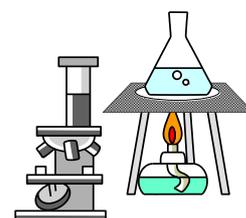
# 令和3年度 名理会理論研究部調査（アンケート）の結果

全小理準備委員会 理論準備部

## 【アンケートの概要】

- 名理会ホームページに掲載して募集し、46人から回答
- 回答者の担当学年（一人で複数学年担当も計上）

小学校	3年 <u>11</u> 人、4年 <u>9</u> 人、5年 <u>13</u> 人、6年 <u>7</u> 人	計 <u>40</u> 人
中学校	1年 <u>1</u> 人、2年 <u>4</u> 人、3年 <u>5</u> 人	計 <u>10</u> 人



## 【研究についての設問回答】

- 研究場面（名理会研究テーマ 3つの研究の視点より）

- (1) 「問題を見いだす」学びの場面 7人
- (2) 「問題解決の力を養う」学びの場面 24人
- (3) 「主体的に問題解決しようとする態度を養う」学びの場面 15人

- ICT活用機器

教師用タブレット 40人 児童用タブレット 40人 大型テレビ 22人  
書画カメラ 2人 電子黒板 0人 デジタルカメラ 6人  
ビデオカメラ 2人 コンピュータ 6人 その他 0人



## 【結果及び記述内容から】

- 回答者について

小学校からの回答が多く、各中学校で理科の先生が取り組んでいる実践を吸い上げることができなかった。名理会の活動が名古屋の中学校理科の先生にとって魅力ある活動となるよう、さらに工夫していく必要を感じる。

また、4人の先生が一人で複数学年を担当している。専科指導を行っている学校が少しずつ増えてきていると思われる。専科としての指導の成果や課題についても、集約・共有していきたい。

- 学びの場面について

(2)「問題解決の力を養う」、(3)「主体的に問題解決しようとする態度を養う」学びの場面の実践が多かった。タブレットのカメラで実験・観察の記録を撮影したり、シンキングツールを使って結果を考察したりする方法が取り入れられている。多くの先生がタブレットを使った理科の授業に奮闘している姿が想像できる。

一方で(1)「問題を見いだす」学びの場面の実践は少ない。選択した先生から、まずは導入でしっかりと問題把握をすることに重点をおいている記述が見られた。導入場面の直接体験や、観察、実験方法の工夫などについて今後の実践を期待したい。

- ICT活用について

タブレットを活用した実践が圧倒的に多い。大変便利であるだけでなく、工夫する余地も多い。回答者の研究意欲も高いと思われる。回答者の実践内容を取り入れることで、新たな工夫を生み出せるようにしたい。

※ アンケートにご協力いただいた会員の皆様、ありがとうございました。